

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

市民と野党の共闘で 5.16 関西勤労協学習集会

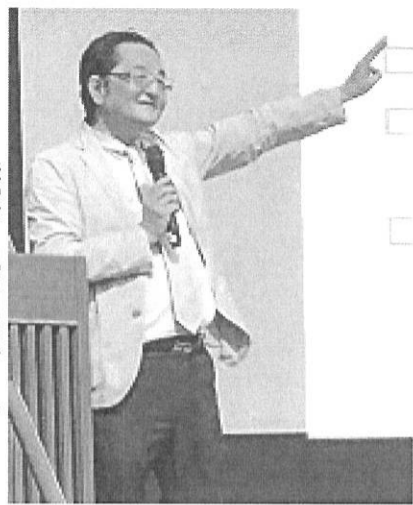
安倍改憲をストップさせよう!

政治的激動の時代

安倍政権が天皇の代替わりと改元を政治利用し、9条改憲の動きを強める中、安倍政治を終わらせよう!と、5月16日、関西勤労協主催の学習集会が中央区民センターホールでおこなわれました。労働組合や民主団体などから約200人が参加しました。富田宏治さん(関西学院大学法学部教授)が、「市民と野党の共闘が未来をひらく」と題し、安倍政治、維新政治の本質について触れ、ウソと偽りの政治とどう向き合うかについて語りました。



はじめに富田さんは、韓国の文在寅大統領の誕生、南北首脳会談と板門店宣言、歴史的な米朝首脳会談の実現、オカシオ・コルテスさんのアメリカ下院議員当選、オール沖縄・玉城デニーさんの知事選挙圧勝など、世界的情勢に触



講演する富田宏治さん

れ、「時代は激しく揺れ動きながらも、互いに影響をあたえ、一歩ずつすすんでいる」と語りました。

一方で市場原理主義とグローバル化の行きついた先として、「世界で最も裕福な8人の資産が世界の上位50%(36億7500万人)の資産とほぼ同じ」であることを紹介し、貧困と格差の拡大が私たちの想像以上にすすみ、恐るべき社会になっていると警鐘を鳴らしました。

安倍政治と維新政治の本質

安倍政権は、不都合な事実にはウソ呼びわりをし、「アベノミクスによる景気回復」「北朝鮮のミサイルが・・・」「平和のためには海外での武力行使など、自らは空気のようにウソをつき、戦争法」「特定秘密保護法」「共謀罪」など、海外で「戦争できる国づくり」をすすめてきたことを紹介しました。また、2012年に民主党政権から自民党政権になり、貯蓄ゼロ世帯の割合が大幅に増加し、若者の生活が破壊されて不安定な生活を強いられている背景についても述べました。中間層をあまり、生活保護世帯や性的マイノリティ、障害者など、弱者への剥き出し

の憎悪をあらわす対立構図を作り出し、そうした中、何が事実や真実かは重要ではなく、現状を打破してくれそうなりリーダーを待望する人たちが、言葉を変えて本質を「まかす安倍政治に期待を寄せている」と指摘しました。また、大阪の特徴として富田さんは維新支持層は税や社会保険などの公的負担への負担感を重く感じつつ、逆に公的負担を負うことなく福祉や医療などの公的サービスを享受している「貧乏人」「年寄り」「病人」への憎悪を抱く「勝ち組」・中堅サラリーマン層の姿にほかならないと述べました。さらに維新政治の本質は、大阪に広がる貧困と格差を「分断」へと転化させ、中堅サラリーマン層の弱者への憎悪の感情を組織化し、その「分断」を固定化したものと言えると鋭く指摘しました。

憲法3000万署名をひろげよう

講演の最後に、「世論調査を見ても、『いまの憲法を変える必要はない』が国民の多数派です。ここに確信を持ち、市民と野党の共闘をすすめて、7月の参議院選挙で改憲勢力が2/3議席をとることを阻止することが重要です」と述べました。さらに、「自分たちが社会を変えていくんだ」と世界的情勢が物語るように、憲法



大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



国際サッカー連盟と言えば「FIFA」。5月21日は、オランダ、スイス、スウェーデン、デンマーク、ベルギー、フランスの6カ国とレアルマドリード(スペイン)によって「FIFA」が創立された日だ。

FIFAと言えば、ワールドカップ。1978年アルゼンチン大会が強烈に印象に残っている。中盤をアルデイレスがドリブルで駆け上がり、長髪を振り乱して躍動するマリオ・ケンペスが得点王になった。アルゼンチンがオランダを決勝戦(延長)で破り初優勝した。アリー・ハーソンのロングシュートにも度肝を抜かれた。

当時の日本サッカーレベルは低く、国際的には通用しない時代だった。現在、サッカースパイクはいたるところで購入できるが、当時のサッカーショップは「ミカド」ぐらいで、梅田まで足を運んだ。プーマからケンペスモデルのスパイクが発売されていた。

「ドーハの悲劇」から26年。1993年のJリーグ開幕で日本サッカーレベルは向上し、1998年フランス大会から6回連続ワールドカップに出場している。学生時代、日本がワールドカップに出場するなんてありえないと感じていた。センターフォワード釜本率いる全日本が、外国のプロチームに歯が立たなかったのだから。若い時にはわからなかったが、「あきらめ」がすべての「敗北」につながることを理解できるようになった。Jリーグはそれを私に突き付けた。「あきらめ」の対極にある言葉、それは「希望」だろう。詩人ルイ・アラゴンが「教えるとは、希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むこと」と述べた。

誠実で思慮深く理性的な人になりたい。(久)

大障教

青年部ではこんなことをやっています！

青年部のとくくみ特集！

【発達学習会】

【鉄板ネタ学習会】

【沖縄学習会】

3月9日(土)に青年部の

Facebookでリレー連載している『私の鉄板ネタ！』の学習会を行いました。今回の内容は、茨木支援の浅野先生による「ぶくぶくアート」と東大阪支援の松石先生による「千日紅のリース作り」の二本立て！実際に教材を用意して頂いてのワークショップ形式で行われ、「ぶくぶくアート」ではペットボトルと洗濯ネットの簡単な装置から作られる泡を直接触ったり、色を工夫することで、感覚遊びとしても活用できるという意見が出ました。「千日紅のリース作り」でも盛り盛りにドライフラワーの千日紅をくっつけていきながら、参加者みんな集中して静かな作業の時間が流れ、日々の忙しい仕事をその瞬間は忘れた優雅な時間を体験することができました。

3月21日(木)『沖縄クッキング学習会！』を

しました。参加者は大人9人、子ども1人で、市教、寝教組、府高教、堺教組からも参加がありました。沖縄料理を食べながら、沖縄のことについて話す中で、「沖縄のことを考える」とって、やっぱり大切だよね」ということに、改めて気付くことができるようにと組まれた企画。

クッキングは、ポーク卵おにぎりと豆腐チャンプルーを作りました。美術の先生が、ポーク卵おにぎりをまるで作品のように作る姿や、片付けを手早くこなす自分たちの行動に「私たち“先生”やな！」と思わず笑ってしまうなど、賑やかに調理ができました。差し入れのサーターアンダギーなども味いながら、沖縄に関する動画を見たり、



ステキなリースができました

企画者が旅行で訪れた渡嘉敷島のことを聞いたりしました。「こんな動画があるのかと、今後の企画の参考になった」「沖縄での学びは、日常生活に追われて薄れてしまっていたが、思い返すきっかけになった」「佐喜真美術館などに行ったことがあるが、沖縄には学校の先生は絶対行かないといけないと思った」など、様々な感想も交流し合うことができました。



クッキングを楽しみました！

4月6日(土)に子どもたちの成長発達についての学習会を行いました。講師には龍谷大学・大阪発達支援センターほぼろ大東相談員

の宮本郷子先生に来ていただき、青年部の先生方のお子さんの動画や、実際に会場に連れてきてもらい、おもちやや型はめ等をしてもらう中で定型発達の特徴や見るべきポイントなどを解説していただきました。

発達検査の様子



も4人の1〜4歳のお子さんたちが来てくれ、賑やかに発達検査の実際の一部などをを見せていただきました。映像からはハイハイや四つ這いといった、「歩く」前の姿勢や動作の重要性等を、そして実際の子どもの様子からは同じ型はめや積み木課題でも年齢による比較や、集団の中でお互いを意識する中で発達の動機付けが見られたりして、非常に興味深い結果となりました！実際の年齢よりも、発達年齢がどの子も高いというのも面白かったです。詳しくは青年部Facebookにて発表しようと思います。

夏休みには第2回目も企画しようと考えていますので、また多くのご参加をお待ちしています。

青年部総会を行います！

日時：6月26日(水)

19:00~

場所：たかつガーデン

「オーフ」

青年部のみなさ〜ん！

今からご予約くださいね！

